下郡議長会全議員研修会講演で思う

10月15日、足柄下郡議長会町村会合同研修会が真鶴町で開催され、三町の議員と町職員が出席し、「阪神・淡路大震災を体験して」をテーマに講演を受講した。

阪神・淡路大震災の災害の様子、避難はいかにしたのか、救援やボランティアはどうであったのか、そしてその後の再建の歩みはどのように行われたのか、実体験のままのきめ細かな話があまりにも痛々しかった。

しかし、仮設住宅は平成11年5月にすべて撤去され、町の復興の機運を盛り上げようと、町内で多彩なイベントが繰り広げられたと聞いて安堵もした。

私たちの生活の背景には、大なり小なりさまざまな災害があることを忘れないようにしたい。神経質だ、心配のしすぎだという声も聞くが、自分の身は自分で守る。そのために何をすべきか、常に危機管理の意識を持っておく必要があるのではないだろうか。

全国的に今年は台風がとても多かったが、その都度夜間であれ、土日であれ町長を始め、各担当課職員がパトロールを行い、安全に対し十分努力を重ねていられる。

阪神・淡路大震災でかけがえのない命が多く失われたことを心に留め、一年に一度の防災訓練、そして今年配布された「箱根火山防災マップ」などを再度読み直し、防災力を高めつつ毎日の生活を送りたいと願っている。

なお、阪神・淡路大震災の被災者への救援物資として、箱根町はカンパン2万個、アルファー米千食、紙おむつ千枚、その他雑貨等を送付したそうです。

（勝呂 記）

"災害は ところかまわず 忍びよる"

県町村議会議員研修会に参加して

11月19日、大井町立中央公民館において「歴史に学ぶまちづくり」と題して、作家の童門冬二氏による講演が開催されました。

童門氏は、31年間、東京都職員を勤めた後、作家活動に入ったとのことで、特に、歴史の中から現代に通ずるものを好んで書くと言われるように、徳川300年の歴史に重ねて、今日の政治を否応なく意識せざるを得ない講演内容でした。

今、小泉内閣による地方交付税や補助金削減と税源移譲の「三位一体改革」が物議をかもしていますが、少なくとも徳川時代には、各藩は地方分権ではなく、石高で税も保証された地方主権であったという話を始めとして、笑いの中にも、なる程とうなづくことの多い話でした。

特に、寛政の改革を行った松平定信公が福島県白河市に造った「南湖公園」の話は、納得のいくものでした。

現在も白河地方では、この公園が日本で最初の公立公園であることは、代々語り継がれていることは事実です。

しかし、失業対策のために造ったというのは初耳でした。

また、今で言う「敬老の日」を最初につくったのも松平定信公とのことで、庶民のために政治、つまり「まちづくり」を行えば、それが後々までも庶民が語り継いでくれるという示唆に富んだ講演でした。

（山田 記）

編集後記

8月後半から日本列島には多くの台風が上陸し、西日本を中心に大きな被害があり、箱根町でも数件の被害が生じました。秋の観光シーズンの到来から長期に亘っての台風来襲ですから、観光産業従事の方々に大きな打撃とはなったことは言うまでもありません。

更に、新潟県中越地震の発生により、多くの方が避難所生活をしております。箱根町も早々に中越地震被災地へ救援物資の提供と消防職員5名を派遣し、派遣された職員は現地での災害活動において、活躍されたと聞いております。

台風・地震の被災者の方々は不自由な生活と不安の中でお過ごしのことをお察しいたします。早く安心できる生活が戻りますことをお祈りいたします。私たちも日ごろより身の回りの安全や非難袋の点検を心掛けたいものです。

（折橋 記）

議会だよりはこね
編集委員会
委員長　山田和江
副委員長　折橋尚道
委　員　勝呂昌子